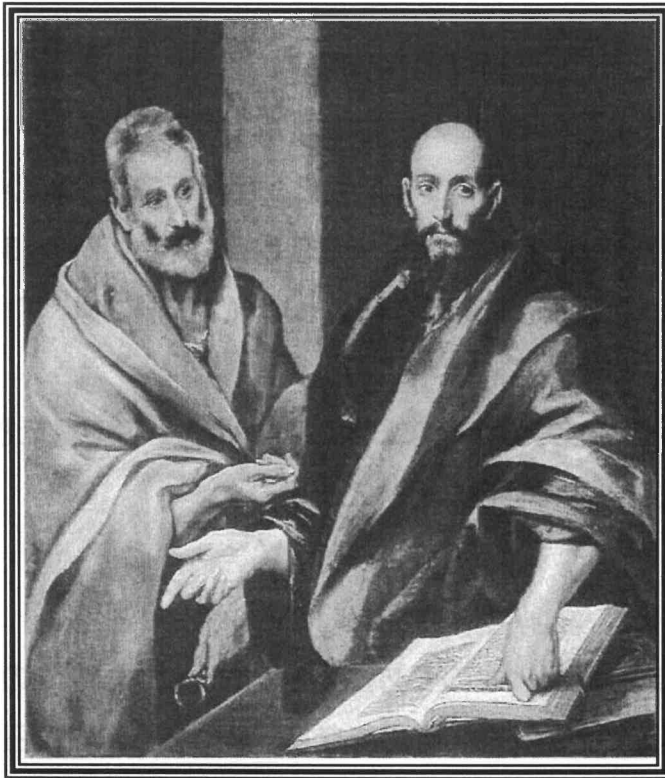


2009年(平成21)6月

カルメル
霊性センターニュース



エル グレコ : 聖ペトロと聖パウロ

244号

DE IMITATIONE CRISTI

キリストにならう

—バルバロ訳—



第13章 誘惑に抵抗する

1 人生は試み

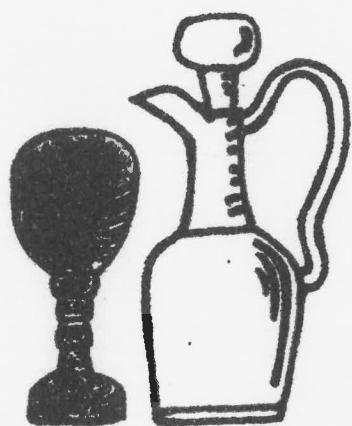
この世に生きているかぎり、私たちはいつも患難と誘惑とに、つきまとわれるであろう。ヨブ記には、「人間のこの世の生活は、不断のいざないである」(7・1)と記されている。だからどんな人も、自分につきまとう誘惑に気をつけ、眠らずに「食い荒らすものを探して巡っている」(1ペトロ5・8)悪魔の不意打ちを受けないように「祈りをもって」(1ペトロ4・7)警戒していなければならない。

少しも誘惑を受けないほどの完全な聖なる人はいない。そして私たちは、誘惑からまったくのがれることはできないのである。

2 誘惑は役に立つもの

誘惑はわずらわしく、また厄介なものであるにしても、しばしば人の役に立つのである。それによってその人は、謙虚になり、清められ、教えられるからである。すべての聖人は、誘惑と患難とを通して完徳に達し、そして、誘惑に抵抗しなかった人々は、悪におちて滅びてしまった。誘惑や患難を少しも受けないほどの聖なる会も、隠れた場所もない。

心の泉



聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 6 -

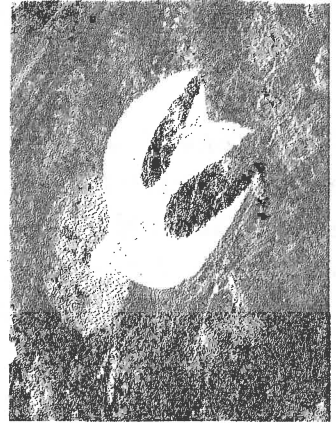
生まれつきの素質が

何であろうと 問題ではない。

最も重要なのは

聖霊にとらえられ

この愛の霊によって 変容されることである。



—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd—

新学年がはじまり、または社会での新しい歩みのはじまり、大自然は寒い厳しい冬を越して命の息吹をうけて新しい芽を出し、すべてが新鮮に感じられるようになってから日が経ちました。そしてそろそろ梅雨となり、うっとりしい日々がやってきます。でも雨に洗われる季節でもあります。一雨ごとに紫陽花の花は色合いを深め、新鮮な姿をみせてくれます。

効率性、生産性が問われる現代社会に生きるわたしたちは、いつの間にか社会の価値観にどっぷりと浸かり汚染されがち・・・社会での「成功」を夢見、「あれこれの能力さえあつたらば・・・」と思わずらい、生産・効率を追求しはじめているかもしれません。そのような時、マリー・エウジェンヌ神父の言葉を思い起こしましょう。

生まれつきの素質が何であろうと、問題ではない。

最も重要なのは聖霊にとらえられ、この愛の霊によって変容されることである。

神はわたしたち一人ひとりにタラントンをあずけられました。イエスのたとえにあるように、あずかったのが1タラントンか、それとも10タラントンか、あるいは3タラントンかが重要ではないようです。どのようにあずかったタラントンを活用したかが問われ、「忠実なよい僕だ」と主人に言われたのは2タラントンを受けた人であったとイエスはたとえ話で語られています。

愛の霊、聖霊は確かにわたしたち一人ひとりを内から新しく愛のうち造りかえてください。最も重要なのは聖霊にとらえられ、この愛の霊によって変容されることであると信じ、キリストが約束した聖霊を待ち望みましょう。それは聖霊降臨の祝日（今年は5月31日）に限られたことではありません。平凡な日々の中に常に「聖霊、来てください」と聖霊を待ち望みたいものです。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(47)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

ヒンズーの宗教では、プラナヤーマは大きな意義を持っています。プラナヤーマは、精神の集中や祈りにとってとても大切です。プラナヤーマのもっとも明らかな効果は、神経組織に感じられます。プラナーナがあらゆる種類のエネルギーと見なされているように、プラナーナの統御は、神経の衰弱を防ぐうえでとても重要なのです。プラナヤーマは、神経組織を通して、すべての器官の健康な機能を刺激し統御するのです。プラナヤーマは、バッテリーを満たす電流のように、神経組織をエネルギーで満たすとも言えます。車を乗りすぎると、機械のシステムが弱くなります。これは神経が衰弱した人の状態です。プラナヤーマでは、顔面の筋肉はリラックスします。それは、感覚器官（嗅覚、触覚、視覚、聴覚、味覚）を鎮静させ、リラックスするように精神を内へと退かせるのです。精神がリラックスすると、これを常に実行している者は、精神集中の次の段階に進むのです。この精神集中の状態が、祈りの中へ入っていくことをやさしくしてくれるのです。

練習 2

くつろいだ姿勢をとってください。そして空気が流れが鼻孔から肺へと通っていくのを感じ取ってください。鼻のまさに頭で、すべての知覚を感じ取るには、少し時間がかかります。空気が入ってくるときは、冷たく感じ、出て行くときは、暖かく感じます。それから、同じことを鼻の間で、一番上のほとんど目の間で感じるようにしてください。そしてさらに中に入り、意識を集中するならば、その結果、のどに知覚を感じるようになるでしょう。のどの部分で、呼吸にともなうすべての知覚に意識を集中してください。この旅を続けると、同じ感覚を肺の下や上の部分でも感じるようになるでしょう。この意識を保ちながら、同時に鼻の頭で、鼻の内部で、目の間で、のどで、そして最後に肺で感じてください。この意識の訓練によって、開始から数分内にリラックスすることが、簡単にできるようになります。このリラックスした状態は、私たちにポジティブな沈黙へと導きます。それは、祈りの扉なのです。

こころよい香りをたのしむことから、貧しい者に対する嫌悪感が生ずる。これは、キリストの教えに反したことである。なお服従に対する逆らいや、卑しいことを素直に受け取る心も持てなくなり、霊的無感覚というようなものが、少なくともその欲求に比例して現われてくる。(十字架の聖ヨハネ『カルメル

考察

1. 意識しながら普通に呼吸することは、まわりの人々に対する感性を増大します。だからこそ、修道者や聖人たちはいつもまわりの人々に注意をはらっていたのです。だからこそ、彼らはいつもリラックスし、落ち着いて、平和で、エネルギーに満ちていたのです。
2. 香りへの執着は、私たちの生活における多くの重要な事柄、たとえば、貧しい人々、必要なものに事欠いている人々、助けを必要としている人々、不幸な人々、悲惨な状況にある人々に対する感性をにぶらせます。
3. 私たちが呼吸を意識せず、平和でなく、感性豊かでないならば、私たちは自己中心的となり、自分自身の慰めや贅沢に過度の関心を持つようになります。この態度は、私たちの祈りの体験を妨げることとなります。

12. 「群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした」

(ルカ 6:19)

ある若者が交通事故でなくなりました。若い妻は、悲しみにうちひしがれました。隣人は彼女のところに来て、自分たちの人生における多くの悲劇を語り、言葉によって彼女を慰めようとしてきました。私がある家に着いた時、その若い女性は激しく泣いていました。私は、一言も言わずに15分ほど、彼女の頭に手を置きました。その後、彼女は私を見つめ、こう言いました。「神父様、神はどうしてこのような悲劇が私の人生に起こることを許されたのですか」。私は、彼女が悲劇の最初の衝撃から完全に立ち直るまで、彼女の頭に手を置き続けました。

手は、普通接触を意味します。私たちは人と関わるために、また物を感じるために手をのびます。手には、他者に力や温かさや言葉にならないメッセージを伝えられる素晴らしい能力が与えられています。神経科医は、手と脳の間膨大なネットワークについて語っています。専門家は、脳と手の間には、脳と体の他の部分との間以上に、多くの神経があることを観察しています。私たちは触れるだけで、荒れた状態、固さ、柔らかさ、液状、熱さ、冷たさ、生ぬるさ、滑らかさ、鋭さなどを感じ取るのです。手は、おそらく身体の他のどんな部分よりも、触覚体験においてもっとも恵まれた部分であると思われるのです。

(九里 彰訳)

ヘンリ・ナーウェンの

旅路の糧 (122)



洗礼とエウカリスティア

秘跡は、神がその中で私たちに触れ、私たちを創造し、生きたキリストに変容するとともに独特な出来事です。主な二つ秘跡は、洗礼とエウカリスティアです。洗礼においては、水が変容への手段です。エウカリスティアでは、パンとぶどう酒です。生活上のもっともありふれた物—水とパンとぶどう酒—が、神が私たちに近づく聖なる手段となっているのです。

これらの秘跡は、現実の出来事です。水とパンとぶどう酒は、単に神の愛を思い起こさせるだけではありません。それらは、神を私たちの生きている場へと迎え入れるのです。洗礼において、私たちは罪の隷属から解放され、キリストを身にまといまします。エウカリスティアにおいては、キリスト自身が、私たちの食べ物と飲み物となるのです。

(0924)

交わりの秘跡としてのエウカリスティア

洗礼はエウカリスティアへの扉を開きます。エウカリスティアは、イエスがそれを通して私たちとの親密な永久の交わりに入って来られる秘跡です。それは、食卓の秘跡です。食べ物と飲み物の秘跡です。毎日の食物の秘跡です。洗礼が一生に一回の出来事であるのに対し、エウカリスティアは毎月、毎週、そして毎日の出来事です。イエスは、その生と死の記念として、エウカリスティアを私たちに残しました。単に彼のことを思い起こさせる記念ではなく、私たちが彼の体の一肢体とする記念なのです。それゆえにイエスは亡くなる前の夜、パンを取り、「これはわたしの体である」と言い、また杯を取り、「これはわたしの血である」と言われたのです。キリストの体を食べ、キリストの血を飲むことによって、私たちは彼と一つになるのです。

(0930)

九里 彰訳

「彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け・・・」(マタイ 28, 19)。

「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」。「名によって」に対応するギリシャ語の言葉は、日本語には訳しにくいのですが、直訳すれば、「名に向けて」、「名に入れる」、あるいは、「名の中に沈める」となります。また、「名」とは、神の永遠の本質、愛の救う力としての外部への輝き、すべてを救いの完成に導く全能の権能の歴史の中での力ある輝きを指しています。ですから、「名によって」は、神の愛の救いの計画にわたしたちを参入させ、沈めると説明的に訳してよいのです。また、「洗礼」との単語そのものが、「洗う」と言うよりは、「沈める」に強調点を置いています。わたしたちは、洗礼によって神の救いの営みの中に沈められ、新しい関係を神と全世界と結ぶものとされるのです。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」、この句も、もう少し原文に忠実に訳すならば、「天上において、また地上でも、一切の権能がわたしに授けられている」となります。そして、「一切の権能」とは、何を対象とする権能なのでしょう。天と地のすべての支配、統治する権能であると言うよりは、すべての根源である神である御父の全貌と救いの計画を余すところなく、間違ふことなく啓示する権能、どのような妨害に直面してもこの計画を最終的完成に導く権能と言えます。この啓示者の権能を、イエスは、言語での表明を超えて、一人の人間、一被造物、しかも、罪に陥った全人類との連帯性に生きる者としての地上での誕生から死までの生き方すべてで、特に十字架の死と復活、過ぎ越し秘儀で生きられました。「父よ」と呼びかけ、究極の方、御父に十字架の死に至るまで御自分を超えて誠実であったイエスの姿に、神の内面、愛の対話が啓示されています。また、罪がもたらした死をも愛の最高の証に変容するところに、「一切の権能を授かっている」イエスの姿があります。イエスの死は、他者を生かすために生きる、これを自分のアイデンティティにしていることを、復活は、この姿が神の内的生命そのものであることを示しています。

神の内的生命は、他者を生かすための愛の対話です。究極の方、原理なき原理と言われる御方・御父と、この御父に対面する御方・御子との対話、そして、愛の対話そのものである聖霊です。聖霊によってすべての生きるものはこの愛の対話に参加させていただくのです。わたしたちは、「父と子と聖霊」の中に沈められ、礼拝するのみではなく、愛の対話に招かれています。ルカ 渡辺幹夫

キリストの聖体

「取りなさい。これはわたしの体である」 (マルコ 14:12-16, 22-26)

今日わたしたちはキリストの尊い御体と御血の祭日を祝っています。聖マルコはその福音において、最後の晩餐をイエスの死と神の国の到来に結びつけています。イエスが“主の晩餐”すなわち“聖体祭儀”を制定なさった時、主は、このパンとぶどう酒を聖なるものとする特別の祝福に、新しい決定的な意味をお与えになりました。

イエスは、かつてカファルナウムで人々に“人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない”と告げられたことを実行するために過越の時を選ばれました(ヨハネ6:51-58)。イエスの死と復活による新しい過越とも言うべき御父への過越は、最後の晩餐において予期され、聖体祭儀において聖別されます。これはユダヤ人の過越の履行であり、神の国の栄光の内にある教会の最後の過越をうかがわせるものです。これは最も意義深いイエスキリストの会食であり、また最も重要なとき、キリストがパンを裂かれるときです。この食事の中で、イエスはこのパンをイエスの御体、この杯を御血と同一のものとされます。主イエスが弟子たちに、イエスの肉を食べその血を飲むように命令されるとき、主はわたしたちが主のいのちを、わたしたちの存在の中心にいただいて生きるように招いてくださるのです(ヨハネ6-53)。イエスが差し出してくださるそのいのちは神ご自身のいのちそのものです。十字架上のイエスの死、最後の晩餐における御体と御血の奉獻、そして神の国が、そのすべての予言が成就されて、到来するとき、イエスが再び弟子たちと食事を共にされるという約束は、密接に繋がっていて切り離すことはできません。イエスは弟子たちに“わたしの記念として行いなさい”と教えられました。このことばはイエスの贖いの死、イエスの復活、そして再び戻ってきてくださるという約束の“記念”として行われるすべての聖体祭儀を制定します。“だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです”(Iコリント11-26)。わたしたちの聖体祭儀は、主イエスが過越の子羊とその花嫁の天の国での婚宴を弟子たちと新たに祝われる最後の日为先取りしています。皆さんは主の食卓でキリストの杯を飲み、キリストのパンを味わうことの本当の喜びがどんなものであるか、おわかりになりますか。

“主イエス、あなたはわたしのための”命のパン“であり”救いの杯“です。どうかわたしがいつもあなたをいただいて、あなたに従ってこの世の十字架の狭い道を歩んでいくことが出来ますように。この道は天の国の祝宴に開かれています。あなたはそこで全ての選ばれた人々をあなたの国の食卓につけてくださるでしょう。”

(Sr. Paulina)

年間第十二主日 マルコ 4, 35-41

「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」(マルコ 4, 40)。

夜の闇の中、激しい突風にもてあそばれた船の中で、イエスは眠っておられる。弟子たちは生命の危険を感じ、イエスによりすがる。『先生、わたしたちがおぼれもかまわないのですか』。イエスが風と湖に『黙れ。静まれ』といわれると、すっかり風になった。そして、弟子たちには、『なぜ怖がるのか。まだ信じないのか』と言われた。「弟子たちは非常に恐れて、『いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか』と互いに言った」との結末でこの聖書朗読箇所は閉じられます。

この聖書の記事がわたしたちにまで伝えられてきたのは、イエスが風や湖さえも従わせる不思議な権能のある方、奇跡を実行する方であったからなのでしょう。そうではないのです。イエスが、十字架の上に何の奇跡をも呼び起こすことなく殺されていった方であり、自分たち自身は、この恐ろしい光景の前に動揺し逃亡してしまった。その方が神によって復活させられ、神のいのちに今も生きており、自分たちの深い罪をも赦している方であるとの確信に、弟子たちが導かれていったからです。この体験がなかったらとしたら、イエスは不思議な能力に満たされた方として弟子たちの記憶に残ったかもしれませんが、そこに真実な救いはありませんし、福音が書き残されることもなかったでしょう。イエスの死と復活を体験した弟子たちの目線だけで、今日の箇所の真意は読み取られるものなのです。

その後の福音宣教において、嵐にもてあそばれ、すべてが海の藻屑になってしまうかとの印象を持った時に、幾度、弟子たちは遭遇したのでしょうか。この箇所が福音として思い起こされたのは、このようなときにこそです。このような嵐、危険、迫害をイエスが鎮め、目の前の恐怖から自分たちを解放してくださると期待して、それもあったでしょう、しかし、たとえそうでなくとも、嵐、危険、そして失敗、自分たちの死からも、予想もしなかった良いもの、より神のご計画に沿った新しいものを創造してくださると確信してなのです。『黙れ。静まれ』とイエスが命じられたのは、危険や迫害、失敗を前にして動揺する人間の心になのですし、『なぜ怖がるのか。まだ信じないのか』と力強いお言葉を響かせられるのは、復活された弟子たちと共におられるイエスなのです。

ルカ 渡辺幹夫

年間 第13主日 (B)

「『娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのだ。．．．』」

(マルコ5：21-43)

あなたは主に期待をもって信仰のうちに近づいていますか。絶望的な、あるいは無力な状況におかれた人々は、イエスを探し出したとき、失望することはありませんでした。何が彼らをイエスに引き寄せたのでしょうか。奇跡への望みだったのでしょうか、それとも彼らの苦悩への慰めの言葉だったのでしょうか。12年もの間ひどく苦しんだこの女の人はイエスが何をしてくださうと期待したのでしょうか。嘆き悲しんでいる父親は死んだ自分の愛する女の子にイエスが何をしてくださると期待したのでしょうか。イエスは人間的には何も理由がないようにみえるところに希望を与えました、イエスの希望は真っすぐ神に向けられていたからです。イエスは信仰の火花に点火するため(あなたの信仰があなたを救った)希望の言葉を女の人に話されました

(娘よ、安心して行きなさい)。4世紀の教父、シリアのエフレムはこの奇跡について、「かくれた神の子よ、あなたに栄光がありますように、あなたの癒しの力は、苦しんでいる女性のかくれた苦しみを通して現わされました」と解説しました。群衆たちは、目に見えるこの女性を通して目に見えない神性を見ることが出来たのです。御子自身の癒しの力を通して、彼の神性は知られるようになりました。苦しんでいる女性が癒されたことを通して、彼女の信仰は明らかになりました。

イエスはまた愛する子供を失った父親に神的な希望を与えました。会堂つかさが公けにイエスのところに行き隣人や親戚の人達の嘲笑を誘うことは、相当勇気のいることでした。雇われた泣き屋たちでさえ彼をあざ笑いました。彼らの悲しみにはまったく希望がありませんでした。それでも、イエスは少女の手をとって、死の支配から彼女を救い出しました。5世紀の教父、ピーター・クリソロガスはこの奇跡について述べています。「この人は会堂つかさで、律法に通じていました。神が言葉によって全てのものを創造し、一方人間は神の手によって創造されたということを読んできました。ですから彼の娘が再び創造されることを、娘を創造した同じ手で生き返らせられることを、神に信じていました。娘の上に手を置き無から彼女を創った神は、死んだものから再び彼女を再生させるために彼女の上に手を置きます。

二つの場合とも、他の人の必要に対してイエスが個人的に関心を持ち、進んで病気を治したり生命を回復させたりするイエスの姿に目がとまります。イエスは出会う一人ひとりに自由に全面的に自分を与え、私たちはイエスの中に個々別々の人に広がる神の無限の愛を見ます。主があなたの要求を聞いて行動されるという確信にみちた期待をもってあなたは主に近づいていますか。

「主よ、あなたは私たち一人ひとりを個別に、独特で個人的な愛で愛してください。あなたの救いの力で私の生命に触れ、完全に私を癒し、回復させてください。他の人たちへ完全な愛の奉仕ができるように私を助けてください。」(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (26)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架のヨハネの決定的な召命 (3)

この重要な時というか瞬間に聖テレジアが現れ、こうして十字架の聖ヨハネは、り足カルメル会士でもカルトゥージオ会士でもなく、跣足カルメル会士、テレジア的カルメル会士となるのです。

この出来事の報告者は聖女自身であり、彼女はこのことを知ることができたばかりでなく、このことを『創立史』の第三章で語るためにもうってつけでした。

ほんの二三年前、私はこの二人の聖人の最初の出会いについて報告することになりました。私の理解は、次のようなものでした。「霊性におけるこれら二人の巨人（テレジアと十字架のヨハネ）の最初の出会いは、1567年の夏から秋にかけて、メディーナ・デル・カンポで起こった。その時、聖女はそこに第二の修道院を創立にやっていたのである」。 (聖女は) 起こったことを私たちに語ろうとしつつ、「訪問者、すなわち、サラマンカで勉強している若い神父の品定めを始める」。実際の話、その時、ホアン修士は25歳、テレジアは52歳。この年、サラマンカで叙階されたこの司祭は、聖アンナ修道院で初ミサ（歌ミサ）をささげるために、やっていたのでした。

それから報告者は、私たちに彼の名前を教えてください。「十字架のヨハネと呼ばれています」と。あの最初の対話の印象は、次のように記されています。「私は主を賛美しました。彼と語り合いながら、私は彼に大いに満足しました」。聖女は何と要求の高い人なのでしょう！

召命の確信や人生航路の変更などの話となり、「私は、彼（十字架の聖ヨハネ）がカルトゥージオ会に行きたいと願っていることを知りました」。テレジアの説得力は、彼の登場を準備します。「私はしようとしている計画を彼に話し、主が私たちに修道院をくださるまで待つようにと、強く彼に願いました。そして会にとどまり、会を改革するならば、それは最大の善益となり、またそれだけいっそう主に仕えることになるでしょうと」。

(続く)

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

20. 福者 三位一体のエリザベット (1880-1906) — その6

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとらえられ、彼のことしか考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会後間もなく、エリザベットは病気になり、胃疾患（現在では、アジソン病であったと考えられている）のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを”Laudem Gloriam (栄光の賛美)” であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。



福者 三位一体のエリザベット

—— 祈り ——

おお、私の神、私の拝する三位一体の神よ、どうか私の魂がすでに永遠のみ国に住んでいるかのように、静けさと平和のうちに、あなたに根ざして生きることができますよう、完全に自分を忘れるように、お助けください。おお、私の不変の神、何ごとも私の平和を乱すことなく、私をあなたから引き離すことがありませんように。一瞬ごとに、あなたの秘義の深みへと運ばれますように。私の魂に平和を与え、あなたの天国、あなたの愛する住まいとしてください。私があるあなたをそこに独りきりにしておくことなく、いつも全存在をもってそこにとどまることができますように。全き信仰に目覚め、全存在をあげて礼拝し、あなたの創造的な働きに自分をすっかり委ねることができますように。

おお、私の愛するキリスト、愛によって十字架につけられたお方、私はあなたのみ心の花嫁になりたいのです。あなたを栄光で覆いたい、あなたをお愛したい……、愛によって死ぬほどまでに！ でも、私は自分の弱さを感じます。ですから、あなたに「あなたご自身を私にまどわせ」、私の魂をあなたの魂のすべての動きに同化させ、あなたの中に私を沈め、私を所有し、あなたご自身が私の代わりに生きてくださいますよう、お願いいたします。そうして、私の生涯が、あなたのご生涯を輝かせる一条の光線となりますように。まことの礼拝者、癒し主、救い主として、私のうちにおいでください。

おお、永遠のみことば、私の神のみことばよ、私は生涯をあなたに聴き入りながら過ごしたい。あなたからすべてを学ぶために、心をすっかり素直に開いていたい。すべての闇、すべての空虚、すべての無力さを通して、いつもあなたを見つめ、あなたの大きな光の中にとどまっていたい。おお、私の愛する星よ、私があるあなたの輝きから離れることのないように、私を魅了してください。

おお、焼き尽くす炎よ、愛の霊よ、「私に降り」、みことばの一つのご託身を私の魂のうちに行ってください。私が主のご人性の延長となり、主が私のうちにその秘義のすべてを新たにすることがおできになりますように。

おお、御父よ、あなたの貧しく小さな被造物に、愛をこめて身をおかがめになってください。「あなたの陰で私を包み」、「あなたがそのうちに喜んで住まわれる愛する御子」だけを私のうちにお眺めください。

おお、私の聖三位、私のすべて、私の至福、無限の孤独、私を沈める果てしない淵よ、私はあなたに、いけにえとしてこの身をお渡しします。あなたの光の中であなたの偉大さの深淵を観想するために旅立つときまで、私があるあなたのうちに沈むことができるよう、あなたご自身を私のうちにお沈めください。
(1904年11月21日 三位一体への祈り)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる (I列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

民族大移動

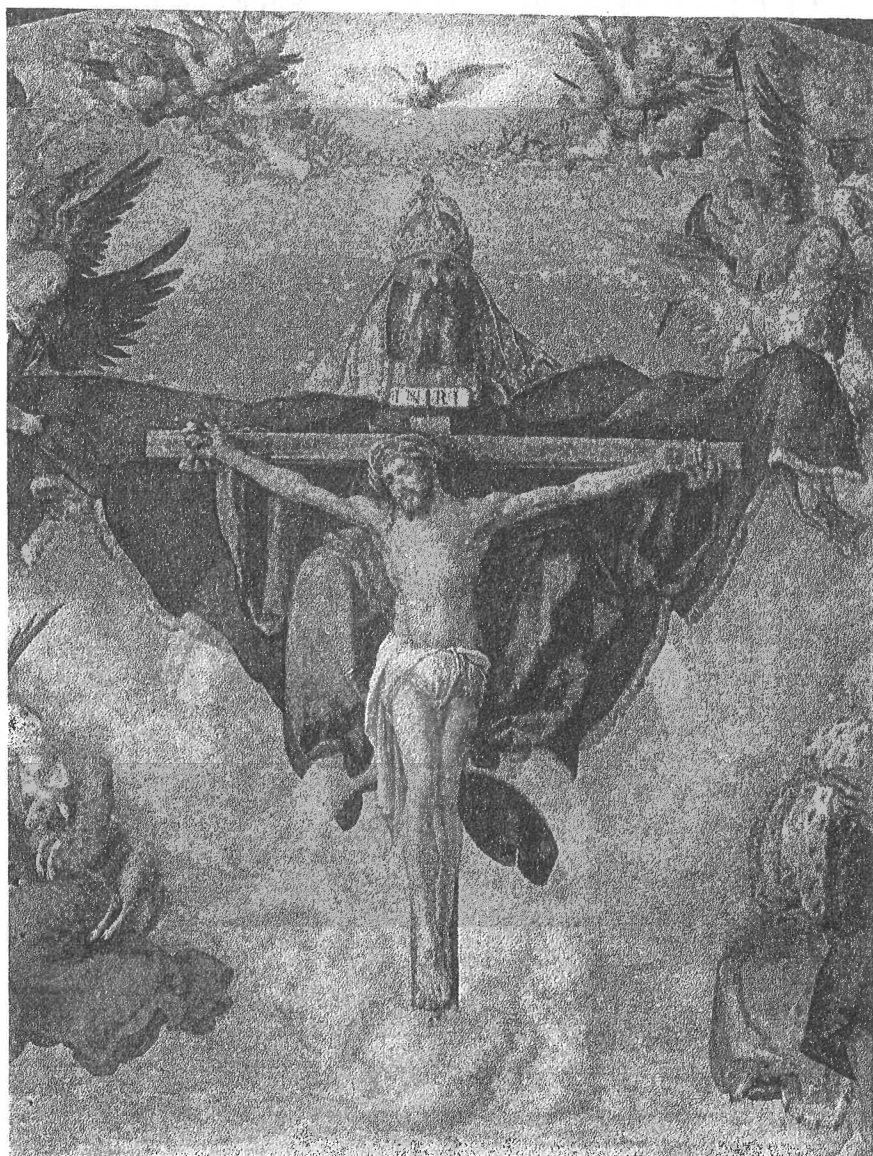
現在、世界の舞台ともいわれる地域は、大わけにして西にヨーロッパ、南に中南米、東にアジア諸国等々がありますが、現在のように落ち着くまでには種々の事件が発生したものでした。なかでもヨーロッパについてみるならば、4世紀末にフン族の西進に触発されて、ゲルマン諸民族がローマ帝国内に移住し、西ローマ帝国を滅ぼして定住し、諸部族の王国を建設するには、凡そ200年もの月日がかかったものでした。舞台は地中海周辺から西ヨーロッパに、そして役者は西ゴート人からゲルマン人に代わり、まさに中世の閉幕を告げる事件となったのでした。移住民族は、ゲルマン的混合文化を創りだし、それが中世以降のヨーロッパ文化発展の基礎になったとも考えられています。また政治的に見れば、必ずしもローマ帝国の総主権を否定したものでなく、多くはローマと同盟関係のもとに、平和的な土地分割が行われたともいわれています。国内支配に関して、特に行政面に於いては、ローマ系の官吏に依存することが多く、“よい結果を挙げた” という史実も伝えられているのです。

以上は、ヨーロッパ中世史の中で、民族大移動によって起こった、文化の受容面から見た景色なのですが、それは今春行われた、私達の修道会の人事移動の景色と同様の感じかも、と思ったものでした。私は、本部修道院の原住民の側ですから、生活一般にしろ、共同の祈りにしろ、従来通りを踏襲していればいいので、そのために特別の神経を使わなくてもいいのですが、支部から本部に転勤になったシスター達は、従来の支部生活と種々の点で勝手が違い、本部共同生活に合わせるのは相当神経が消耗するだろうなと思っています。環境の相違は、移動する側にとっては、“新しい世界の展開” ということで、順応するために神経を使うから疲れるでしょうし、受け入れ側も景色が変わるので、“過去の習慣” という眼がねが^とれないところから来る戸惑いに、思わぬ時間が流れてしまうこともあります。

民族大移動的な事柄や、個人の移動に至るまで、身近に起こった小さな出来事を通して、頭と心を使うことは、“大変で大切なこと”なのだ” ということを、しみじみ実感させられた最近でした。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子

6月7日
「三位一体の主日」



アルブレヒト・デューラー「三位一体の礼拝」

「あなたに会えて」「きっといい日」という表題の、手の中に収まるほどの小さな二つの日めくりがあります。

超ベストセラーといわれる晴作久昌英神父さまの著作です。

真四角の真っ白な頁の中央にひと言ふた言の短いことばと、その下に小さな愛らしい挿絵が描かれています。ことばは正しく珠玉の味わい、一冊31頁のどこを開けても深く心に染み入る世界が出現し、その世界はことばの少なさに比して、殆ど永遠と云いたくなる遙かさがあります。

恐らくは全ての人が必要どこかで感じたことがあり、確かめたことがある身に覚えのある世界だともいえるでしょう。挿絵も晴作久神父さまの手によるものですが、その単純さといい、その快さといい、そのまああるい線といい、思わず涙ぐみそうになる懐かしさを誘う可憐な絵です。更には、神父さまの署名の「は、」という文字の何というのびやかで温かな「は、」でしょうか。そして、どの絵にもきまって描かれているのは、小さな虫が飛んでいるかに見える黒い点々です。でもそれは虫ではありません。小さな星が二つ、三つ、もっとたくさん・・・と、またたいているのです。コーヒーカップから立ち昇る湯気の中に、二人の人が並んでいるその真ん中に、こどもを抱く母の頭上と抱かれるこどもの頭上に、身体を横たえる布団の上に、枕元に、小さな星はまたたいています。

「がまんしないで 赤ちゃんみたくに 泣いてもいいよ」ということばには、小さな星は七つもまたたくのです。

真四角の真っ白な頁の中に、人間が思い描ける限りの果てない世界があり、私が生きる今の世界があります。

自分の本箱を人に見られるのは嫌だと云った友人がいます。

本箱に並ぶ書物を見れば、大体のところのその人の姿、かたちが分るからだと言うのです。そう云えば私も電車の中で読む本は、必ずカバーをかけます。丸見えでは公衆の面前に不用意に自分の内面をさらしてしまうようで、気恥ずかしくもあり、一寸した防御でしょう。いい年をしたおばあさんがホラー小説に読み耽るという図は、人知れぬ行為でありたいのです。

確かに、どのようなことばに心惹かれるかは、その人がどのようなかたちを表現しているといえそうです。小説の中の一行のことば、ひとつの科白が生きて行く上の道標となることあり得ます。

私も若い時からそのようなことばを抜き書きして、ノートをいっぱいにし、折々に幾度もその文字をみつめ、思いを凝らし、目を心をひらいてきました。

晴作久神父さまの日めくりは、たった一言 ふた言で、その人を理解し、支え、なぐさめ、勇気づけてくれます。正しくひとつの宇宙、小宇宙なのだと思います。

先日、息子の家に行った時、棚の上に「抱きしめたくて あなたを生んだ」の頁が開かれてあるのをみました。

只今三人の男児を相手に、朝から晩まで時には大声をあげて奮闘する息子のお嫁さんが、夜、三人の寝顔を見てこのことばを心に想うのだと話してくれました。私は、その心中を察して思わず涙を覚えました。たとえ怒ったりしている時でも、必ず三人をしっかりと抱きしめているのだということを、どうしたら彼女に伝えることができるだろうかと、胸を衝かれつつ私はうんうんと肯きました。

ところで、私はこの日めくりを家族だけではなく、辞職に際して実にたくさんの人に贈ったのですが、それ等の人たちが（もし捨ててしまっていないとしたら）今日、今、どの頁を開いているのかを知りたいと思うのです。それは紛れもないその人の消息であり、近況であり、私にとっての何よりのたよりであるからです。

毎日毎日新しい頁をめくってその日のことばを味わうことも、日々に新たなりで素敵ですが、心に響き留まることばに刻々向かい合い、そのことばに見守られていることも心強いことではあります。

私自身の二つの日めくりは、この数年間ずっと同じところが開けっ放しの状態です。埃をかぶってさえいます。

「さあ もう寝よう あしたはきっといい日」「朝のコーヒーの香り 今が永遠」。何とも怠け者然りのさまですが、今、いいのです。もう少し以前は、「いつまでも続く草原 きっとまた会える」「毎日が巡礼ここが聖地」でした。

これ等の小宇宙に抱かれながら、日々のあらゆることを受けとり、そしてゆだねていく営みを、本当に幸せに思います。

心の底のもっともっと奥にある、切なく深々としたうめきのような悲しい思いが、ことばと出会う幸せがどうかたくさん起こりますように。

いのちの言葉 5月

神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。(ペトロの手紙一 4・10)

エディットは生来、目が不自由で、施設で生活していましたが、そこの担当司祭が半身不随となり、ミサをたてられなくなったため、聖堂からご聖体を取り去られることになりました。これを聞いたエディットは、教区の司教様のもとに赴き、「ご聖体は、闇の中にある私たちを照らす唯一の光です。残してください」と願い出ました。すると、この許可がおりただけでなく、エディットには、施設の中でご聖体を配る役割も与えられました。

さらに何かに役立ちたいと望んだ彼女は、ラジオ番組を作る許可を得ました。番組の中で彼女は、苦しむ人々を支えるため、自分の経験を通して、生活やモラル面での助言や考えなど、自分が持つ最良のものを提供しました。

これ以外にも、エディットの話はたくさんあります。目が見えない彼女は、苦しみを通して光を得たのでした。

私は、他にも多くの例を挙げることができます。善は、騒音をたてませんが、たしかに存在しているのです。エディットはキリスト者として生きています。彼女は、私たち一人ひとりに賜物が与えられているのを知っており、それを他の人のために用いているのです。

そうです。「賜物」、または「カリスマ」（ギリシャ語から来る言葉）とは、教会を治める任務を担う人々に対し、神がお与えになる恵みだけを指すものではありません。あるいは、教会が特別な状況や大きな危機の中であって、改善のためには位階制度だけでは不十分であると神がお考えになり、皆の善となるような知恵や知識、奇跡や異

言の賜物、教会内に新しい霊性を生み出すカリスマなど、特別な賜物を、あるキリスト者に直接送られる場合もありますが、「賜物」は、このようなケースだけを指すのでもありません。

賜物（カリスマ）には、大勢の人が備えている他の素朴なものも含まれます。それが賜物であることは、もたらされる実りからわかります。聖霊が働いておられるからです。

さらに生来の才能も、賜物、カリスマと呼ぶことができます。ですから、誰もが持っていることになり、あなたもそうです。

私たちは、こうした賜物をどう用いればいいのでしょうか。よく活用する方法を考えましょう。賜物は、あなた自身のためだけでなく、皆の善となるよう、与えられたものだからです。

神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

賜物には、無数の種類があります。一人ひとりが自分の賜物を持っていますから、属する共同体の中では、各々が固有の役割を担っていることになります。

あなたの場合はいかがでしょうか？ 何かの資格を持っておられるなら、それを知らない人や学ぶ機会のない人に教えるため、一週間のうち何時間かを使ってみてはいかがですか？

あるいは、とても広い心をお持ちかもしれません。それなら、他の善意の人々と力を合わせ、貧しい人や疎外されている人が、

尊厳を取り戻せるよう、働きかけることはできないでしょうか。

または、人を慰めることに特にすぐれておられるかもしれませんし、家の片づけや料理、わずかな費用で服を仕立てたり、手仕事に上手であったりはされませんか。周りを見渡して、あなたの助けが必要な人に目を向けてみましょう。

自由な時間をどうつぶそうかと考える人や暇つぶしの方法を教える人を見ると、私は胸が痛みます。この地上に、病気の、餓えている人、刑務所に入っている人、知識のない人、迷っている人、悲しんでいる人、麻薬中毒の人、親や配偶者を失った人などがある限り、私たちキリスト者に、暇な時間はないでしょう。

祈りも、他の人々のために生かせる、すばらしい賜物です。私たちは、あらゆるところにおられる神に向かって、いつでも祈ることができるからです。

神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

子供から大人まで、キリスト者皆が、自分の賜物を他の人のために役立てる、そのような教会の姿を想像してみましょう。

キリスト者の相互愛は、強く大きく、際立つものとなり、まわりの人々は、私たちがキリストの弟子であると認めることでしよう。

これほどの実りがもたらされるなら、私たちは、全力を尽くさずにはいられないでしょう。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのちの言葉は、1979年1月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある日、はじめて会う小学生の女の子たちと一緒に色々なことをしながら、神さまの愛を伝え、その子供たちから他の人達にも愛が伝わっていくようにしたいと願って過ごしていました。けれども2時間くらいして子供たちが家に帰っていった時、私は、結局何も出来なかったという失望感におそわれました。数日して子供たちのお母さんがやって来て、娘さんがうれしそうに、“Mさんってそこにいるだけでいいんだね”と話したことを伝えてくれました。とっさに私は「これって、いったいどういうこと？」と思いましたが、「何も出来なくても、そこにいるだけで相手が平和な気持ちになる、そういう人になりたい」と思いました。それは神さまが私に下さった課題であるように感じて、それ以来、思い出せばはそのようにしています。最近も摂食障害の若い女性が、「Mさんといると、安心します。ここで勉強してもいいですか」とそばに来たり、原因不明の病気のお年寄りや、難病が見つかった人が話しかけてくることがありました。少なくとも私のそばにいる時は、平和を感じるように、居心地よくいられるようにしたら、家族の人までとても喜んでくれました。これは神さまが私を通してなされている恵みであると思います。(MK)

連絡先

フォコラーレ：

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

思ひ出の影は美しなべてみな嬉しかりしも悲しかりしも

定めなき人の世とのみ恨みしはつれなきおのが心なりけり

「キリスト教との最初の出会い」 8

—不思議なお守り—Part 3

「キリストのひかりい！」「神にかんしゃあ！」

また今年も復活祭がやってきました。

巡る度に思い出すキリスト教との最初の出会い。

イエズス様には受難と復活という御計画があったように、

私にも凄まじい家族ドラマの計画をたててくださったようです。

「おめえ、何考えでんのか！わけわがんねえ洗礼なんか受けでっ！出てけっ！」
キリスト教のことを全く理解できない父にいきなり玄関まで引きずられながらも、私は必死の思いで柱にしがみつきました。

「イエズス様は必ず家族を幸せにすっがら！」と泣き叫ぶ私。

生まれた時から一度も手を挙げたことのなかった優しい父が、

真っ赤な顔をして突然、立ち上がり私の頭の上からビンタが飛んできました。

「ばかやろ！そだなヤソにだまされでっ！」

※ヤソ：キリスト教のこと。

「おめっ！せっかぐ苦勞して育でだのに親の顔にドロぬんのがっ！」と母。

「お姉っ！何度、言ったらわがんのがっ！目を覚ませっ！」

酒の酔いが回った弟が夕食中のテーブルをものすごい勢いでひっくりかえし、家の中にまるでミサイルが落ちてきたように大きな音をたてました。

まさに家庭内の宗教戦争の勃発。

私が生まれてから家族史上初のキリスト教論争の幕開けでした。

どこの何かもわからない宗教に娘がマインドコントロールされたと思い込み、今まで宗教とは全く無縁だったこの先祖代々に

初めてカトリックの信者が誕生した私を何とか説得し、

教会に通うことをやめさせようとなりました。

洗礼を受けクリスチャンになったことを家族に報告した私は、

新しい人になった洗礼祝いなどなく、キリストの復活を讃える喜びもなく、ただただ支離滅裂な宗教論争とバラバラになった家族の姿がありました。

あの日々から12年。

やがて神様から特別な召命の恵みをいただいて、私は入会が決まり、父と母を連れて、キリストの花嫁であるシスターたちに会うことになりました。

修道院に行く途中、小金井カトリック教会の隣にあるマリア像をみて、

父は突然、足をとめ、

「こんな所に女のお地蔵さんがいるんだね～」と合掌したのです。

マリア様とは分からないながらも真摯に手をあわせて祈る父の姿・・・

12年前、イエス様やマリア様のことをどんなに説明しても理解してもらえなかった壮絶な戦い。

生まれた時から高度難聴障害をもっていた私は人間関係も上手くいかず、いつも一人ぼっちでした。泣きながら神父様のところへ走って行ったあのころ、キリスト者として出発した最初の試練は決して無駄に終わる事なく、

神様はいつか必ず恵みのときをくださるのだ・・・と、ふと気がつき、マリア像に向かって合掌した父と母を見て私は胸がジンと熱くなりました。洗礼をうけ、新しい人になったからといって、すぐ聖人のようになり、立派なクリスチャンになるわけではなく、日々毎日、心の鍛錬が続きます。人間的な弱さのために、傲慢になったり、落ち込んだり、悲しくなったり・・・そんなとき、思い出すが、カルメル修道会改革創立者で有名なアピラの聖女テレジアの言葉です。

『何をも恐れるな。

すべては過ぎ去り、

神のみ変わらず・・・』

誰も頼る人なく、札幌に住み始めたばかりのころ・・・

早朝5時。暗いうちに北11条カトリック教会の朝ミサに向かいます。

時にはマイナス10度近い厳しい寒さの中を歩いて教会に通った時もありました。

『忍耐はすべてを勝ちとる。

神をもつ者には、

欠けるものなく、

神のみでたりる・・・』

収入が安いので、一日1食の生活が続き、いつもお腹が空いていました。

でも、キリストの御聖体をいただくたびに不思議と希望と勇気が湧いてきます。

キリストを知らず、生きることに疲れていたあのころ、

間違ってセロハンテープで貼っておいた御聖体というお守りは

今、考えるとこれほどの恵みとパワーがあったのだから驚きです。

「おめっ、ええシスターに会って幸せだ。ガンバレ・・・」と言ってくれた父と母。

「お姉が幸せなら、お父もお母も幸せだど。応援してっぺ。」と

励ましてくれた弟。

キリストに従うべく修道生活の新しい門出を家族一緒になって祝ってくれたのはこれが初めてでした。

「聖体の秘跡のうちにおられるイエスは賛美されますように」

シスターたちと共に毎日これを唱えながら、人々の幸せを祈りつづけます。

修道院の中庭にさいている春爛漫な桜の木々を見て、

今年も復活祭を迎えることができよかったなあ

感謝いっぱい思う今日このごろです。

聖ヨハネ修道会 M・K

カルメル会の企画案内



内案画金の会々々々



上野毛霊性センター '09年6月~'10年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

④	7月25日~26日	新井延和神父
⑤	9月 5日~ 6日	九里 彰神父
⑥	11月28日~29日	松田 浩一神父
⑦	2010/ 1月23日~24日	未 定

※①、② ③終了

2. 奉獻生活者のための黙想会

A	8月10日(月) 夕食~ 8月19日(水) 朝	中川博道神父
B	8月22日(土) 夕食~ 8月31日(月) 朝	松田浩一神父
C	11月 9日(月) 夕食~11月18日(水) 朝	松田浩一神父
D	12月26日(土) 夕食~ '10/1月4日(月) 朝	中川博道神父

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

5月28日	キリスト者の日々の祈り	松田浩一神父
7月 9日	イエスは祈られた	中川博道神父
9月10日	苦しみの中の祈り	今泉 健神父
11月26日	ミサの祈り	今泉 健神父
2010/ 1月28日	主の祈り	松田浩一神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

6月19日	カルメル会の聖人達とイエスのみ心	松田浩一神父
10月 9日	アピラの聖テレジア	今泉健神父
12月11日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父
2010/2月12日	聖エリア	中川博道神父

5. 「社会人のための心の休息」— 日常のキリスト教霊性を求めて—

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)

新しい企画

松田浩一神父

- ③ 6月19日(金)～20日(土)
- ④ 9月11日(金)～12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010/ 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

※①, ②終了

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6. 青年黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

5月29日(金)～31日(日) 17時受付

11月21日(土)～23日(月) 16時受付

7. 召命黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日(土)～ 5日(日) 15時受付

8. 祭日のミサに与かるために

【【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会 伊従信子NDV

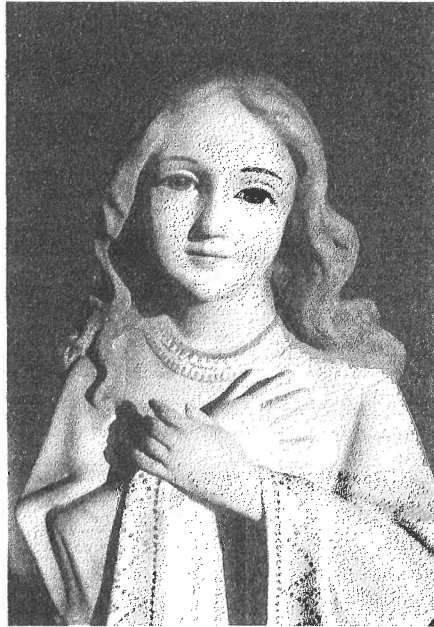
10月10日(土)20時～12日(月)16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「さらに固く信じさせてください」

10.待降節黙想会

12月4日(金) 20時~6日(日) 16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

指導:カルメル会士



幼いマリア像(聖テレジア修道院・黙想)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

6月23日	6月26日
7月21日	7月24日
9月8日	9月11日
10月27日	10月30日
11月24日	11月27日
12月15日	12月18日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

木曜 黙想会

一般黙想

2009年 3月12日

テーマ：「共に苦しむ神」

了

7月 9日

テーマ：「イエスは祈られた」

金曜 黙想会

カルメルの聖人

2009年 4月17日

テーマ：「御復活のラウレンシオ」

了

2010年 2月12日

テーマ：「聖エリア」

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

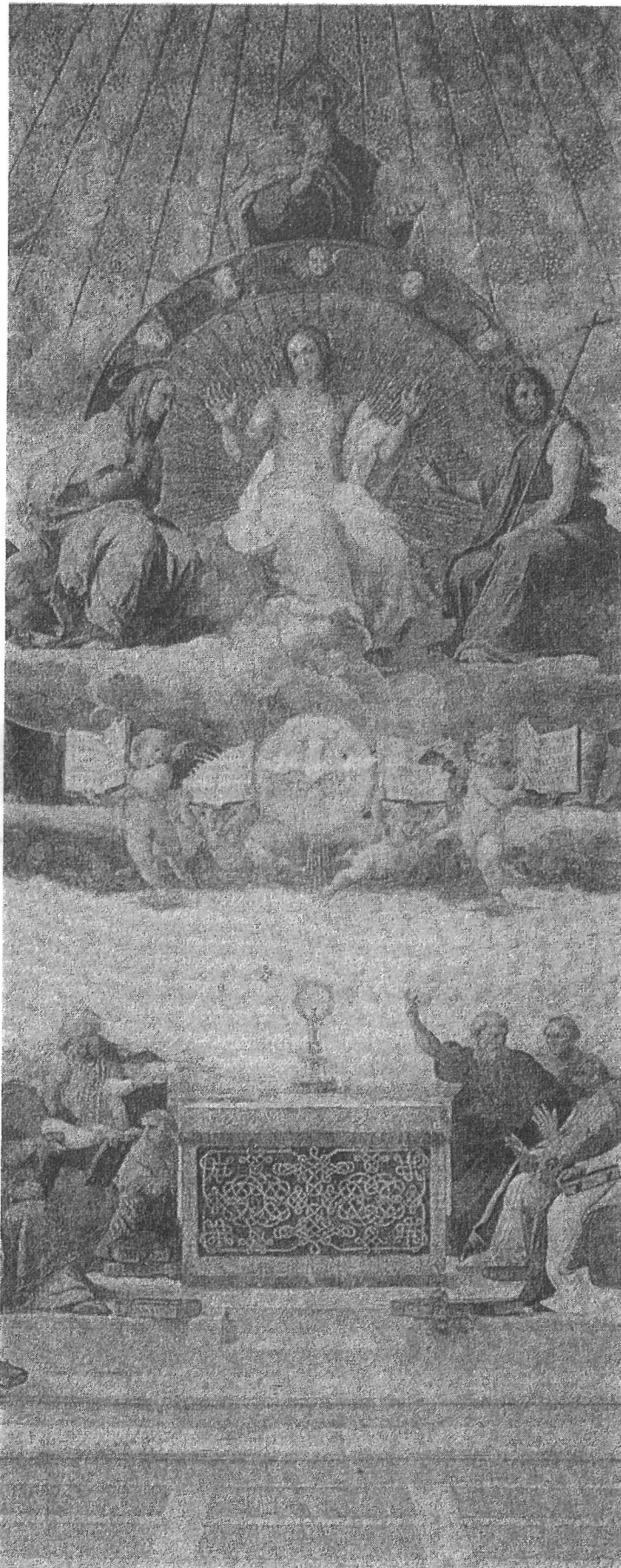
お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

6月14日
「キリストの聖体」



ラファエロ
「聖体の論議」(バチカン)

『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ① 2009年 4月17日(金)～18日(土)了
- ② 5月 8日(金)～ 9日(土)了
- ③ 6月19日(金)～20日(土)
- ④ 9月11日(金)～12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010年 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

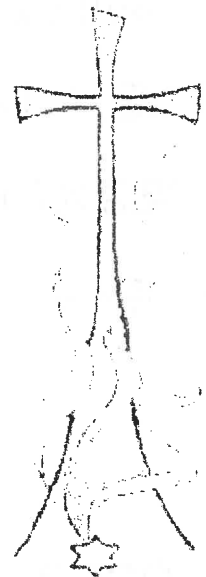
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
E-Mail: mokusou@carmel-monastery.jp



召命黙想会



テーマ：

「キリストに従った者たち」

日時：7月4日(土) 15:00～

7月5日(日) ※

担当：中川博道神父・古川神学生

場所：聖テレジア修道院(黙想)

(東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分)

※黙想終了時刻は、夕刻予定。詳細はご確認ください。

申し込み・問合せ先

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

tel 03-3704-2171 fax 03-3704-1764

e-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

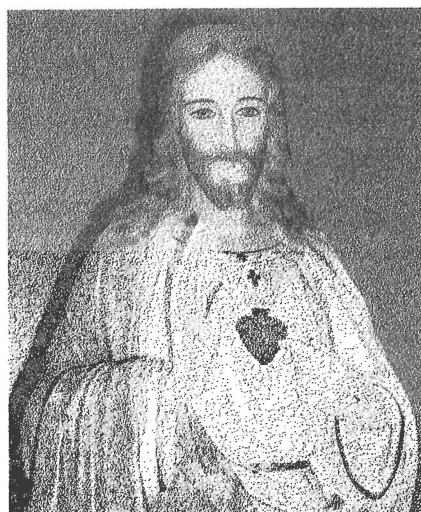
6月のご案内について

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメルの霊性(スピリチュアリティ)の中で、祈りと分か合いのひと時をすごす集いです。

日 時 : 6月13日(土) 19:00 ~ 21:30
「カルメル会士・ヘルマンコーヘンの生涯」
スタッフ : 松田神父・古川神学生

6月27日(土) 19:00 ~ 21:30
「みことばを聴く(年間 第13主日)」
スタッフ : 中川神父・古川神学生

対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女
場 所 : 上野毛教会 信徒会館1階ホール
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分
(世田谷区上野毛2-14-25)



プログラム

詳細スケジュール等は、「カルメル霊性センター」のホームページでご案内いたします。
「カルメル霊性センター」のホームページにアクセスいただく方法は、次の通りです・・・

※ホームページのアドレスを直接指定する場合は <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>
Yahoo やGoogle 等の検索エンジンから「カルメル霊性センター」で検索が可能です。

☆ 申込は不要です。お問い合わせは、FAXかE-mailで住所、氏名、年齢をお書きの上、下記まで。

カルメル会 カルメル・ユース・クラブ(C.Y.C.) 係 (松田神父)
[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

- * 日時：2009年7月25日(土) 18時～26日(日) 16時.
- * 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- * 指導：新井延和師（カルメル会司祭）
- * 会費：¥7000
- * 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

(タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります)

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」(奥村一郎著 ¥1050)

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

‘09年6月～ ‘09年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院(黙想)

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

7月 4日 (土) ～ 5日 (日)

九里彰神父

9月 5日 (土) ～ 6日 (日)

新井延和神父

11月14日 (土) ～15日 (日)

渡辺幹夫神父

一日 (午前10時から午後4時)

6月13日 (土)

新井延和神父

10月31日 (土)

九里彰神父

12月12日 (土)

新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

6月17日 聖パウロ宣教師

九里彰神父

7月15日 カルメル山の聖母マリア

九里彰神父

9月23日 十字架の神秘

新井延和神父

10月14日 完徳の道

渡辺幹夫神父

11月 4日 聖なる冒険

Sr.パウリン

12月 9日 暗 夜

九里彰神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土) ～6日 (日)

九里彰神父

4. 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日 (水) ～10月1日 (木)

伊従信子師

5. 奉獻生活者のための黙想 (午後5時～午前9時)

8月 2日 (日) ～8月11日 (火)

渡辺幹夫神父

8月18日 (火) ～8月27日 (木)

九里彰神父

10月17日 (土) ～10月26日 (月)

九里彰神父

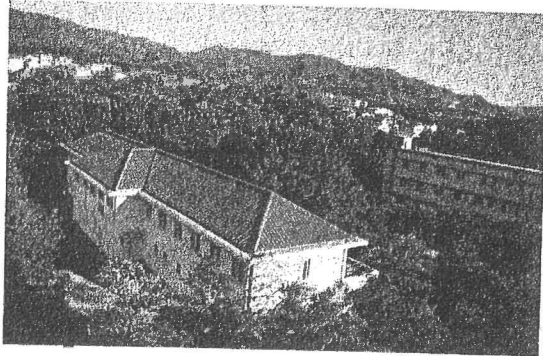
12月26日 (土) ～1月4日 (月)

新井延和神父

6.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

11月8日（日）

九里彰神父



写真・・宇治黙想の家



その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457
e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかがでしょうか。

今年、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み” などなど一見“ネガティブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはずで、この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一泊静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第6回	6月20日（土）	苦しみの中における喜びと平安 三位一体のエルサベツ	九里彰神父（宇治修道院）
第7回	7月11日（土）	苦しみの中の祈り	今泉健神父（上野毛修道院）
第8回	9月21日（月）祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父（宇治修道院）
第9回	10月17日（土）	アヴィラの聖テレジアの霊性からの自由と希望	Sr.ベアトリス（宣教カルメル修道院）
第10回	11月28日（土）	暗夜に輝く神のみ言葉：患まれた方、聖マリア	松田浩一神父（上野毛修道院）

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:40～ 講話【1】
 - 12:00～ 昼食
 - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825
 一泊静修係 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子 TEL052-701-3685

2009年度名古屋聖書深読会

第1回 了 5月16日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

第2回 10月 3日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

* 参加費 ￥1000

* 持ち物 聖書・ノート・筆記具・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 原則として、定員は21名とし、申し込みは、1週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

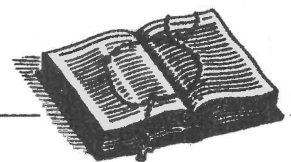
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」NO331 (2008年冬号)「今日の靈性」

- 聖靈の光のもとに — 教父たちの教えと生き方 (12) …高橋正行
マリアの旅 (2) — マリアと共に聴く …中川博道
十字架のヨハネ講話 (13) …フェデリコ・ルイス
今日の歌 (2) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (8) …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(3) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (3)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (23) …伊従信子
現代に生きる「預言者」のこころ …谷口正子
愛の断章 (10) …奥村一郎

雑誌「カルメル」NO332 (2009年春号)「今日の靈性」

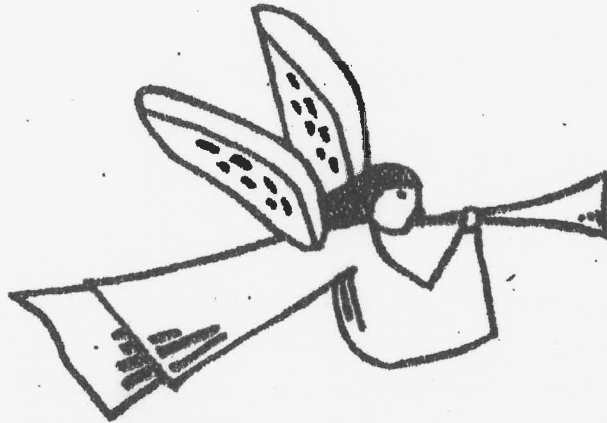
- 「馬屋」の靈性 (1) …高橋正行
マリアの旅 (3) — 外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅 (1) …中川博道
「ザアカイの回心」 …九里 彰
今日の歌 (3) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (9) …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(4) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (4)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (24) …伊従信子
許し、許されるということ …森 みさ
愛の断章 (11) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費 (年5冊: 春夏秋冬号+特集号、送料込み) として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバーキリスト教講座

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ



内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2009年度 ★

K3	09・06・08 (月) 2時から	06・14 (日) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
N1	09・06・24 (水) 2時から	06・30 (火) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
F2	09・07・10 (金) 2時から	07・16 (木) 2時まで	福岡・御受難会黙想の家
Y2	09・07・22 (水) 2時から	07・28 (火) 2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
O1	09・08・23 (日) 2時から	08・29 (土) 2時まで	長野・大鹿村・草々庵
P3	09・09・12 (土) 2時から	09・18 (金) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
Y3	09・10・07 (水) 2時から	10・13 (火) 2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
K4	09・10・21 (水) 2時から	10・27 (火) 2時まで	東京・小金井・聖霊会
N2	09・11・02 (月) 2時から	11・08 (日) 2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
F3	09・11・16 (月) 2時から	11・22 (日) 2時まで	福岡・御受難会黙想の家
P4	09・11・28 (土) 2時から	12・04 (金) 2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	09・12・09 (水) 2時から	12・15 (火) 2時まで	東京・小金井・聖霊会



2009年度祈りの集いのご案内

聖パウロの年

通年のテーマ：

聖パウロについて レクツィオ ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）



6月11日 聖パウロの旅

7月 9日 キリストの使徒であるパウロ

9月10日 聖パウロの書簡 1

10月 8日 聖パウロの書簡 2

11月19日 聖パウロの逮捕（使徒言行録21：27…）

12月10日 聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田 善昭神父

ダニエレ サルツィ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール どなたでも。
聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 下記の土曜日 9時30分～11時、また11時15分～12時45分、

岐部ホール4階404、2つの講座・セミナーでキリスト教関係の思想・哲学
神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、
プログラム等に関してHP(文末)を見よ。

5月30日、6月13日、7月4日、11日、25日、9月5日、19日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分 木曜日 18時～20時30分

上智大学内 Kulturlハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話が
あります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

●接心

(秋川神冥窟)

6月26日(金) 20時30分～28日(日) 13時

一泊2400円程度

8月 8日(土) 20時30分～15日(土) 7時30分

(宝塚市)

6月20日(土) 13時 ～21日(日) 16時

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturlハイム1階右小聖堂

どなたでも。(但し、8月全休、休日休)

●祈りの集い

下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 SJハウス第5会議室

黙想、講話、ミサがあります。6月13日、7月11日、8月8日、9月5日、

ロザリオの祈り 同日 16時10分～50分 Kulturlハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社掃りの黙想】 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。(但し祝日、8月11日は休)

8月25日は、上智大学 Kulturlハイム聖堂。

12月25日(金)はクリスマスの黙想(予定)。

【お昼の黙想】毎月第1・3火曜日 10時40分～11時55分 聖イグナチオ教会
但し祝日休、8月4日休。8月18日クルトゥルハイム聖堂（上智大学）

【水曜日】 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂、
どなたでも（但し、8月全休、祝日休）

【通う霊操】 8月22日（土）～30日（日） 18時～20時45分
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●黙想会 6月6日（土）10時～7日（日）15時、9月12日（土）10時～13日（日）
15時（東村山）

●アガペ会 下記の日、説明会（13時30分）と集い、ミサ（14～18時）。
上智大学内 SJハウス第5会議室、 6月14日（日）

●クリスマス会 12月19日（土）16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時
岐部ホール（予定）。要申し込み。

クリスマスのミサ 12月23日（水）14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認下さい。



問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）
102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス
電話 03-3238-5124〔直通〕、5111〔伝言〕、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2009年～2010年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

- 5/29 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 6/5 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/6～7 黙想会
- 6/12 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/19 救い主の役割—人類の待望

リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2009年～2010年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

- 6/2 創造・歴史・救い—イエスという中心
- 6/6～7 黙想会
- 6/16 「倫理的行為」 行為の規範—人間の本性と神の呼びかけ
- 6/30 自己実現—責任と自由
- 7/7 徳の形成—自己受容と善への意志

《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階
アルペホール

電 話 03-3263-4584

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- 了 ① 08年 12月 27日(土) ~ 09年 1月 4日(日)
- 了 ② 09年 2月 20日(金) ~ 2月 28日(土)
- ③ 7月 23日(木) ~ 7月 31日(金)
- ④ 9月 1日(火) ~ 9月 9日(水)
- ⑤ 10月 17日(土) ~ 10月 25日(日)
- ⑥ 12月 27日(日) ~ 10年 1月 4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑦ 1月 16日(金) ~ 1月 18日(日)
- 了 ⑧ 2月 6日(金) ~ 2月 8日(日)
- 了 ⑨ 2月 20日(金) ~ 2月 22日(日)
- 了 ⑩ 4月 3日(金) ~ 4月 5日(日)
- 了 ⑪ 4月 24日(金) ~ 4月 26日(日)
- 了 ⑫ 5月 8日(金) ~ 5月 10日(日)
- ⑬ 6月 12日(金) ~ 6月 14日(日)
- ⑭ 6月 26日(金) ~ 6月 28日(日)
- ⑮ 10月 2日(金) ~ 10月 4日(日)
- ⑯ 10月 23日(金) ~ 10月 25日(日)
- ⑰ 11月 6日(金) ~ 11月 8日(日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】

了(20) 5月 19日(火)～5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

了(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師(カトリック)

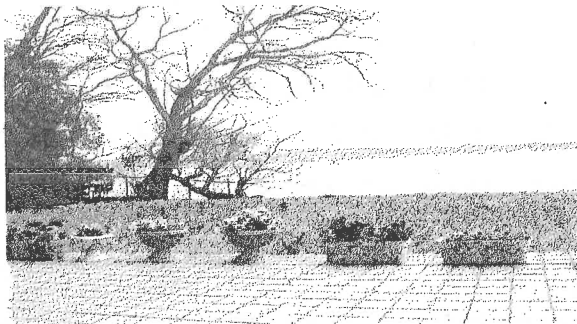
◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・プロトニャック(カトリック宣教師) 安井 昌子(カトリック教育修道女)
菊池 陽子(カトリック教育修道女) 松本 佳子(カトリック教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、電 話 または、E-メールを ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年6月13日(土)

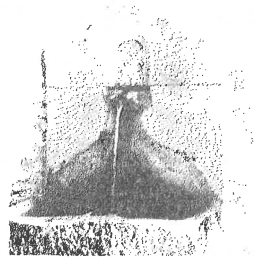
* 次回の予定 2009年7月18日(土) *

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時 ~ 午後5時30分位まで

講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

奥村一郎選集 (全9巻)

刊行完結



奥村一郎選集

カルメル修道会司祭である著者の半世紀にわたる著作、講演録をテーマ別に集成。深い信仰と豊かな霊性、そして透徹した知性が織り成す奥村神学の全貌を明らかにする。

慈悲と隣人愛 ●第1巻

解説・西村恵信
051-0/2,100円

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。

* 多文化に生きる宗教 ●第2巻

解説・橋本裕明
059-6/2,100円

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。

日本の神学を求めて ●第3巻

解説・小野寺 功
053-4/2,100円

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。

日本語とキリスト教 ●第4巻

解説・阿部仲麻呂
055-8/2,100円

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。

現代人と宗教 ●第5巻

解説・鶴岡寛雄
056-5/2,100円

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。

永遠のいのち ●第6巻

解説・八木誠一
054-1/2,100円

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。

カルメルの霊性 ●第7巻

解説・高園泰子
052-7/2,100円

カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通して、その霊性の根源に迫る。

* 神に向かう〈祈り〉 ●第8巻

解説・高橋重幸
057-2/2,100円

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。

* 奉獻の道 ●第9巻

解説・宮本久雄
058-9/2,100円

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。

四六版・上製・平均240頁

各巻定価 2,100円
(オリエンズ宗教研究所)

リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

A. 6cm×10.5cm (¥30)

B. ハガキ (¥100)

C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。住所が変わります！
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

「上野毛霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。

編集後記

4月中旬から5月上旬にかけて、ポルトガルのファティマにおいて、カルメル会の6年に一度の総会が開かれた。全世界から120名余の代表者が集まり、総長や総長顧問たちの選挙が行われた。新総長にはイタリアのトスカーナ管区のザベリオ・カニストラ神父が選ばれ、今後6年間の課題や種々の問題が毎日（日曜は休み）熱心に、適当に休憩を取りながら、朝から晩まで討議された。

ところで会場は、ファティマへ巡礼に来る大型バスの駐車場入口の真向かいにあった。毎晩9時半からは、野外の聖堂でロザリオが一環唱えられる。世界各国から巡礼団が来るので、聖堂の外に人々があふれた。一連ごとに巡礼団の代表（信徒と司祭）が祭壇に登り、母国語で奥義と天使祝詞を唱え、全員がそれに唱和した。その後、ろうそくを手にして、聖歌を歌いながら、広場を行進する。広場一杯に大勢の老若男女が、人種や国籍、年齢や性別を越え、静かに行進するさまは、感動的であった。小さな子ども連れや、乳飲み子を抱いている若い夫婦、車椅子に乗っている人や、障害を持った人など、皆が一つになって歩いていた… これこそファティマのマリアさまのもたらした奇跡ではないのか… (P. 九里)

フォコラーレの夏のつどい

マリアポリ

今年も「マリアポリ」が自然豊かな富士山麓の山中湖畔で行われます。

心身ともにリフレッシュするひとときを 一緒に過ごしませんか？

マリアポリとは：

「マリア様の町」の意味。フォコラーレ発祥の地、北イタリアで1949年に夏の休暇を利用して人々が集い、福音の相互愛を生きる日々を過ごしたのが始まり。今では世界各地で開かれています。「マリアポリ」は、子供から大人まで、どなたにでもご参加いただける集いです。家族的なあたたかな雰囲気の中、講話や体験談、レクリエーションや散策、祈りのひとときもあります。

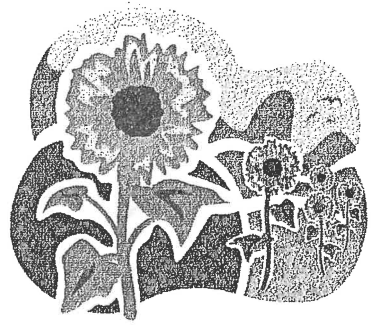
と き：2009年7月18日(土) 13時
～ 7月20日(月・祝) 昼食後 解散
(部分参加も可)

ところ：^{どうしょうかん}東照館 (山梨県南都留郡山中湖村平野210)

問い合わせ： フォコラーレ

Tel：03 (3707) 4018 / 03 (5370) 6424 Email: tokyofocfem@ybb.ne.jp

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito/>



真剣に祈りたい方のための

夏の高原の黙想会

テーマ 自分の将来を考える
～イエスのまなざしのもとで～

2009年8月27日（金）午後2時 ～ 30日（日）午後3時

長野県富士見高原「マリアの家」（マリアの御心会黙想の家）

（中央本線「富士見」駅下車 タクシー10分）

指導：英 隆一郎 師（イエズス会司祭）

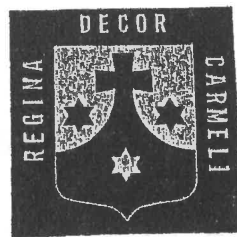
対象：40歳までの未婚女性で、将来の道について真剣に祈りたい方

参加費：1万円（往復交通費は各自でご負担ください）

定員：10名

申込み・問合せ：お電話でお申し込み後、下の申込用紙を切り取って必要事項を記入し
申込金5000円と一緒に現金書留でお送りください。

マリアの御心会 電話03-3351-0297 担当：大原



あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「7月号」製本日	6月30日(火)	上野毛教会信徒会館ホール1階
	(6月は第5週目)	午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171